

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 33

千葉県立船橋法典高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

次のアに加え、イ又はウのいずれか1つ以上に該当する生徒

ア 中学校で欠席、遅刻、早退が少なく、かつ、本校入学後も学習活動に積極的に取り組む生徒

イ 中学校で生徒会活動や学校行事に積極的に取り組み、本校入学後もその分野に積極的に取り組む生徒

ウ 中学校で部活動に3年間熱心に取り組み、本校入学後も引き続き部活動に積極的に取り組む生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 ※ 受検者の人数によっては、評価者を2名とする場合がある。 検査時間：1グループ15分
(4) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 日本語による自己アピール 実施形態：個人で発表 検査時間：70秒～90秒 イ 実技による自己表現 次の部活動実技のうち1つを選択 野球(男)、サッカー(男女)、バスケットボール(男女)、陸上競技(男女) バドミントン(男女)、卓球(男)、バレーボール(女)、 吹奏楽(男女)、書道(男女) 実施形態：個人で発表(ただし、団体種目は、複数人数で実施) 検査時間：1人当たり30分～120分(種目により異なる)

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。 合計点が100点未満である場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ、ウ及びエについて加点（上限60点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 全学年の計の値が3以下の教科がある、または、未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席日数の合計が10日未満の場合は加点する。 3ヶ年皆勤の場合はさらに加点する。
ウ 行動の記録	○印について加点する。 ○印の個数が2つに満たない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	次の①から④の場合、加点する。 ① 同一部活動を3年間続けた場合 ② 運動系、文化系の様々な分野において、校外の大会等で優秀な成績を残した場合 ③ 漢字検定、数学検定、英語検定、毛筆検定又は硬筆検定において4級以上の資格を有している場合 ④ 学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等において委員長、本部役員、部長等として活動した場合
オ 総合所見	記載内容について、総合的に判断する際の参考とする。

(3) 面接〔96点満点〕

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aを8点、bを5点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各32点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

※ 評価者を2名とする場合には、aを12点、bを7点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各48点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機	志望の動機が明確である。
イ 内容	質問をよく理解して、自分の考えで答えられている。
ウ 規範意識	学校のルールを守ろうという意識がある。
エ 態度、言葉遣い、身だしなみ	礼儀、姿勢、言葉遣い、身だしなみがきちんとしている。

(4) 自己表現〔200点満点〕

次のア、イ、ウのいずれかについて、それぞれ2名の評価者が、4つの評価項目ごとに各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを25点、bを13点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各100点満点）を合計し、得点化する。

ア 口頭による自己表現（スピーチ）

評価項目	評価基準
(ア) 自己アピール, 内容	自分の言葉で分かりやすく表現できている。
(イ) 表現力, 意欲	表現力豊かで意欲的に伝えている。
(ウ) 時間	制限時間の範囲内で行うことができる。
(エ) 態度, 話し方, 身だしなみ	礼儀, 姿勢, 言葉遣い, 身だしなみがきちんとしている。

イ 実技による自己表現(運動系)

評価項目	評価基準
(ア) 基礎的な運動能力	基礎的な運動能力を身に付けている。
(イ) 専門能力, 技術	専門的な運動能力, 技術を身に付けている。
(ウ) 意欲	実技の取組に意欲がある。
(エ) 態度, 身だしなみ	実技に取り組む姿勢, 態度, 身だしなみがきちんとしている。

ウ 実技による自己表現(文化系)

評価項目	評価基準
(ア) 基礎的な技術	基礎的な技術を身に付けている。
(イ) 表現力, 実践力	表現力, 実践力を身に付けている。
(ウ) 意欲	実技の取組に意欲がある。
(エ) 態度, 身だしなみ	実技に取り組む姿勢, 態度, 身だしなみがきちんとしている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	60点	96点	200点	$(991 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあたっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 33

千葉県立船橋法典高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 ※ 受検者の人数によっては評価者を2名とする場合がある。 検査時間：1グループ15分

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。 合計点が100点未満である場合は審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 全学年の計の値が3以下の教科がある、または、未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 行動の記録	○印の個数が2つに満たない場合は、審議の対象とする。
ウ 総合所見	記載内容について、総合的に判断する際の参考とする。

(3) 面接

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

※ 評価者を2名とする場合、評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
(ア) 志望動機	本校に入学する明確な意志がある。
(イ) 内容	質問をよく理解して、自分の考えで答えられている。
(ウ) 規範意識	学校のルールを守ろうという意識がある。
(エ) 態度、言葉遣い、身だしなみ	礼儀、姿勢、言葉遣い、身だしなみがきちんとしている。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

4 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面談を行う。